鹿児島市職業訓練協会総会

訓練体制の強化等

鹿児島市職業訓練協会（森山清隆会長）は2日、鹿児島市のアクアガーデンホテル福丸で17年度通常総会を開き、厳しい変化に迅速、的確に対応できる人材育成を目指すための訓練体制の強化などを柱とする新年度事業計画を決めた。

総会では初めに、森山会長が「会員の皆様の協力のおかげで、24人の新入生を迎え新年度もスタートを切ることができました。今年度もさまざまな事業を予定していますので、慎重な審議の程よろしくお願い致します」と挨拶。

引き続き、森山会長を議長に議事に入り、16年度事業報告・収支決算、17年度事業計画・収支予算案などを慎重に審議、全て執行部原案通り可決承認した。また、事業主との連携を取りながら訓練生の欠席を最小限に抑えるための教科時数確保に務めることなどが話し合われたほか、ジュニアマイスターへの参加協力の要請なども協議された。

新年度事業計画は、①訓練体制の充実強化（教務部会・指導員部会の推進など）②訓練内容の充実（効果的訓練法の検討など）③計画的指導内容の実践と研修④生活の自律化促進⑤訓練生確保に関係団体との連絡を密にする―など。

慎重な審議を――と挨拶する森山会長＝鹿児島市のアクアガーデンホテル福丸で

県畳工業組合清掃奉仕

畳の日に心地よい汗

4月29日は、全日本畳・の畳の日」。県畳工業組合連合会が定めた「春一合（増田勇理事長）は、鹿児島市城山町で今年13回目を迎える薩摩義士碑周辺の清掃奉仕作業を実施。県内各地から組合員ら約30人が参加し、草むしりや落ち葉拾いなどの清掃作業を行った。

「みどりの日」に毎年恒例となった薩摩義士碑の奉仕作業は、約250年前郷土の偉人が不屈の精神で本曽川の治水工事を成し遂げた偉業を偲び、それにあやかり低迷している業界を盛り上げる趣旨で実施。

同日は早朝から、県内各地から組合員が駆けつけ、周辺道路の除草やほうきでの清掃、石碑をたわしで磨き上げるなど、約1時間半にわたる作業で慰霊碑周辺は見違えるようにきれいになった。

また、作業を終えた参加者は次々に石碑に線香をたむけた。

作業終了後、増田理事長が国土交通省などとの折衝の報告があった後、「早朝からの作業、ご苦労様。薩摩義士の不屈の精神を受け継ぎ、需要が低迷している業界の活性化につながるように頑張って下さい」と挨拶した。

作業を終え記念写真に納まる参加者＝鹿児島市の現地で

士会国分始良支部青年・女性部総会

末廣部長続投　互いに切磋琢磨を

県建築士会国分始良支部青年・女性部（末廣浩一部長）は4月28日、加治木町の加治木温泉で通常総会を開き、末廣部長の続投を決めた。

総会の冒頭、末廣部長は「昨年度の上海研修旅行では、日本初の都市開発や世界遺産など目の当たりにし、貴重な体験ができた。今年度計画している諸事業に対してもご協力をお願いする」と挨拶。来賓の南明人県建築士会国分始良支部副支部長も「活発な活動が求められた、事業計画等を決めるとともに、任期満了に伴う役員改選では、末廣部長の続投を決めた。

総会の冒頭、末廣部長は「昨年度の上海研修旅行では、日本初の都市開発や世界遺産など目の当たりにし、貴重な体験ができた。今年度計画している諸事業に対してもご協力をお願いする」と挨拶。来賓の南明人県建築士会国分始良支部副支部長も「活発な活動が求められた、と感じる。今後さらに新工法や法律改正など勉強されて、互いに切磋琢磨していただきたい」と祝辞を寄せた。

和田克則氏（加治木町）

社団法人 鹿児島県建築士会
国分始良支部青年・女性部通常総会

出水建設業関連ゴルフ同好会（桜ゴルフ倶）

田中さんが見事優勝

出水建設業関連ゴルフ同好会（桑木康行会長）は4月28日、第42回春の親善ゴルフ大会を出水市の出水ゴルフクラブで開き、79人が参加。熱戦の末、田中清文氏（㈲田中ハツリ工業）がアウト36、イン32、グロス68（ハンディマイナス1）、ネット69で優勝した。

桑木会長は「天気にも恵まれ楽しい大会でした。優勝者の田中さんは先日の南日本シニア選手権でも優勝され、今大会は期せずしてそのお祝いの大会になりました。大会が開催できるのも賛助会員の皆さまのおかげ、あらためて感謝申し上げます」と挨拶。

ルフを楽しむ。

桑木会長は「天気にも恵まれ楽しい大会でした。優勝者の田中さんは先日の南日本シニア選手権でも優勝され、今大会は期せずしてそのお祝いの大会になりました。大会が開催できるのも賛助会員の皆さまのおかげ、あらためて感謝申し上げます」と挨拶。

監事＝鍾田勝次（加治木町）中澤クミ子（国分市）

桑木会長（左）から優勝賞品をもらう田中さん（右）

伊能忠敬大図展始まる

業績の偉大さ体感

伊能忠敬大図展鹿児島実行委員会（会長・吉原進鹿児島大学工学部海洋土木工学科教授）は2日、鹿児島市の鹿児島アリーナで「アリーナに蘇る伊能忠敬大図展」のオープニングセレモニーを開き、伊藤祐一郎県知事をはじめとする来賓や実行委員、各関係者約500人が参加し テープカットなど行い、3日間の大図展が華やかにスタートした。

同展示会は、伊能大図の展示を通じ、国土の再発見、郷土愛の醸成、生涯教育の充実を図ることを目的に実施されたもので、200年前の伊能忠敬の足跡と重ね合わせることにより、忠敬の業績の偉大さと地図を通じた社会資本整備の歴史を知ることができるとして表7人、実行委員13人によるにテープカットおよびくす玉割りで開会した。

伊能忠敬は、江戸時代にわが国で初めて日本列島を測量し、日本地図を作製した近代測量の先駆者と言われる人物。50歳で家督を譲り、天文学や測量技術を学び、55歳にして北海道から測量を始め、全国各地を踏破して屋久島までの地図を作製した。その間に作製された大図、中図、小図、その他からなる地図は400種に及ぶとされ、その地図全部を総称して「伊能図」と言われている。

セレモニーでは初めに、主催者を代表して吉原会長が「200年前に作成された同図は、現在の日本地図の基本となるものです。非常に精巧で美しく、日本の国土の基本が現在も変わっていないことがよく見て取れます」などと挨拶。吉原会長ら主催者代表、実行委員13人によるにテープカットおよびくす玉割りで開会した。

テープカット、くす玉割りを行う関係者＝鹿児島市の鹿児島アリーナで

秀建住宅内覧会

「家庭の一体感」の造り

㈲秀建（樋高秀哉社長、鹿児島市）は4月30日、1日の2日間、鹿児島市喜入町で「住宅内覧会」を開いた。

今回の物件は、木造2階建で各部屋には小窓を多く設けることで部屋への採光が容易になっているほか、壁にはごみやほこりが付着しにくい材質を採用。また、中央部のリビングルームから大きく天井に向かって吹き抜けが設けられており、全ての部屋からリビングが見下ろせることで「家庭の一体感」を感じさせる造りとなっているほか、室内は白を基調としてバスルームにはオレンジカラーをあしらうことで家庭的な温かさを演出するなど、施主の要望をふんだんに盛り込んだものとなっている。

小雨が降るあいにくの天気にもかかわらず、会場となった物件には朝から大勢の家族連れらが訪れ、来場者が語りかける質問に対し対応に追われる担当者らの姿が見受けられた。

来場者に説明をする秀建担当者